

重症心身障害児者の短期入所，訪問看護師が付き添い 岐阜県高山で全国初のモデル事業

重度の身体，知的障害で 24 時間の手厚い医療的ケアを必要とする県内の「重症心身障害児者」は，約 100 人と推測されている。ケアを担うのは保護者が大半だが，負担は重い。こうした保護者の負担軽減を図る県のモデル事業が，高山赤十字病院（高山市天満町）で行われている。病院へ短期入所した重度の障害者に，外部の訪問看護師が付き添う全国初の取り組みだ。

重度の身体，知的障害で，寝たきりで意思の疎通が難しい重症心身障害児者は，人工呼吸器を付け，たんの吸引が必要なケースが多い。訪問看護師が家庭を訪れ，保護者らを支えている。

課題の一つが短期入所できる施設が限られていることだ。冠婚葬祭に出られず，他の子どもの授業参観にも行けないなど重症心身障害児者の保護者の負担は重い。短期入所できれば負担は軽くなるが，受け入れている医療機関は県内に 12 しかなく，病院側の人手不足や障害児者の個人差が大きいことが壁になっている。そこで県は，訪問看護師に着目。なじみのある訪問看護師が病院に付き添えば，病院側は人手を割く必要はなく，家族も安心できる。

同事業は今年 7 月下旬にスタートし，これまでの

利用者は 2 人。その一人，高山市丹生川町の大坪真実さん（41）の三男，虹和君（7）は，人工呼吸器での吸気補助やたんの吸引が必要で，体温や呼吸の状態などの変化も激しい。自宅で訪問看護師の付き添いを受けられるのは 1 日最長 2 時間で，両親は子どもから目が離せない。

「これまでは夫婦そろって出掛けることができなかった。本当に心強い」と妻の智香さん（41）。病院に虹和君を預けると，2 人で買い物や家事に時間を充てた。大坪さんの自宅を訪れ，虹和君を見守る“いつもの”訪問看護師がケアに当たったことも，家族の安心感を支えたようだ。

付き添い中，訪問看護師は同病院の非常勤職員として扱われ，給料は県が実質的に負担。予算額は約 150 万円で，10 月末まで実施する。県医療整備課はモデル事業が成功すれば，短期入所できる施設の増加も期待できる」としている。

同病院医療社会事業部の浮田雅人部長は「入院する必要がなくても大きな負担を抱えている人がいる。子どもに限らず，重い病気の患者や家族を支える受け皿にしたい」と話している。

（岐阜新聞・岐阜 2013 年 9 月 14 日）